

令和5年度 第2回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和5年9月8日（金曜日） 14時から16時まで

（天候不良によりWEB上での意見交換による開催）

出席者 佐藤委員、藤田委員、古橋委員、蛭川委員、高江洲委員、神作委員、安井委員、稲垣委員  
美濃口委員、横田委員、

欠席者 芝委員

傍聴 3名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料確認 次第 資料1 令和5年度相談支援従事者指導者養成研修会（国研修）受講報告 資料2 主任相談支援専門員の推薦について 資料3 令和5年度東京都相談支援従事者研修検討会 年間活動方針及び活動計画について（令和5年9月8日） 参考資料 基本情報グラフィック</li> <li>記録のため速記者の方が参加をしていること、会議の内容の録音についてご了解いただきたい。また、傍聴として、指定研修事業者が参加している。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回の検討会の資料公開については、議事録要旨と併せて検討会委員の確認をいただいた後公表するということで了承いただきたい。</li> <li>本日の検討事項については4点。国研修の報告、各検討チームからの報告、主任相談支援専門員の推薦条件等について、その他となっている。</li> </ul>
各委員	（異議なし）

2 検討事項

（1）令和4年度相談支援従事者指導者養成研修会（国研修）受講報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず事務局の職員から受講報告をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>概要だけご報告をする。今年度は、事前学習として3時間の講義動画の視聴の後、6月7日から9日の3日間、所沢にある国立リハビリテーションセンターにて、2019年ぶりに対面で実施された。</li> <li>今回はテーマ別で四つのコースに分かれた。資料は国立障害者リハビリテーションセンター学院のホームページにも掲載されている。</li> <li>初日は全体の講義、2日目、3日目のお昼過ぎまではコースに分かれての研修。3日目の夕方は、各都道府県でグループになり、コースで学んだことの共有や課題整理、研修で得たことを自分たちの都道府県でどう生かすかという内容。</li> <li>事前学習は、過去3年間の国研修の事前学習と同じ内容で初任者研修、現任研修、主任研修の企画立案のポイントに関する講義。それぞれの研修の位置づけ</li> </ul>

	<p>や相談支援専門員に求められるレベルのお話などがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体講義では、重要事項の説明、アセスメントの考え方、ヤングケアラー支援、介護支援専門員との連携、合理的配慮、相談支援従事者の人材育成と相談支援の標準化、協議会の活性化をテーマとした講義があった。</li> <li>重要事項の説明の中で、国研修は令和5年度以降は都道府県で標準カリキュラムに基づく研修を実施するための企画立案に資するとともに、各都道府県での演習者指導者養成研修のモデルとなる中央指導者養成研修であると話があった。</li> <li>コース別研修については、自治体コースについてご報告する。 このコースは、障害があってもその人らしい暮らしができるように支援することが相談支援専門員の役割であるということをはじめとした相談支援の基礎的な理解に関する講義と演習が大きな軸の一つとなっていた。そして、もう一つの軸が、相談支援の充実と市町村支援、相談支援体制整備ということだった。 どの地域に行っても同じレベルの相談支援が受けられること、市町村の地域診断をして必要なところへ支援を行うこと。地域の体制整備と人材育成は両輪で行うことの必要性などの話があった。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問等については、最後にまとめて実施したい。</li> <li>次は、稲垣委員、お願いします。</li> </ul>
稲垣委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジメント基礎コースに参加した。</li> <li>事前学習プログラムとしては、アセスメントとケースレポートのニーズ整理表の作成をしたことで、アセスメントの技術を高めるところを重きとしてやってきた。また、自身の都道府県の相談支援研修の現状の報告等々も報告書でまとめた。そのあとグループワークで各都道府県と情報交換を行った。</li> <li>ケアマネジメント基礎コースは、相談支援従事者初任者研修や現任研修の構造を理解して、都道府県での研修の準備を進めるための研修であった。何度も出てきたのは、教える人に教えるための研修という言葉。</li> <li>主に初任者研修と東京都でいうとファシリテーション研修、その二つを行うスキルを身につけることを目的として行われた。</li> <li>初任者研修のニーズ整理表の導入について、他道府県では進んでいないところも多く、時間をかけて行われた。記載の仕方について、かなり細かく行い、また、それを実際自分で5分間で発表することで気づきも得ることができた。</li> <li>また、初任者研修から現任研修の繋がりを踏まえストレングスとインフォーマル資源の活用について整理をするということもグループ内で共有し、気づきを得ることができた。</li> <li>現任者に求められる技術として、相談支援の実践者を対象とした教育を行えているのかということもグループワークで検討した。</li> <li>今回この研修に参加したが、私はファシリテーター研修の担当ではあるが、初任者研修に関しては担当外のため、次年度以降にこの研修で得たことを初任者</li> </ul>

	<p>研修へ活用できるようにしていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後になるが、このような研修に参加でき本当に勉強になり、今後の基盤を得ることができたと感じている。また、東京都の取組が最先端であるということも改めて実感できた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、古橋委員、お願いします。</li> </ul>
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりコースの報告をする。</li> <li>・このコースの目的は、現任研修における、相談支援専門員による地域づくりに係るプログラムを展開するために、必要となるファシリテーターの資質についての確認や、その役割を果たすために活用できる要素に気づく、論理的な理解を促すために実践に例えて説明できる力を獲得するということ。</li> <li>・演習では事例シート「利用者を中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」をあらかじめ作成し、ほかの自治体の方たちと自分のこの事例を元に、気づきを展開していった。</li> <li>・インフォーマルな関係性という社会資源を考えるとところに地域づくりのポイントがあるためにその事例が取り扱われた。基本的な事例シートの内容は、事例の概要、出会いからニーズの把握。面白いと思ったのは、そのサービスが導入される前の状況や、支援者が関わるようになってからの時間軸の中で、そのインフォーマルに一旦たどり着くところを可視化していく、その結果どうなのかということ。サービスとともにあるという中に地域づくりを考える時間になっていたので、関心を持って取り組めた。こういったことを可視化できることも非常に勉強になった。</li> <li>・(資料1 P 9) は実際にサービスが入る前から、ヘルパーや地域定着が入ってきた例を示している。</li> <li>・このようにサービスのある暮らしの中で、その人らしいインフォーマルにつながるところをあげていった演習だった。</li> <li>・この演習を通して気づいたことは、インフォーマルな社会資源、要するに地域づくりということが結果表れているところには、その経過やきっかけに注目することが大事だということ。そして、地域づくりというキーワードは、ハードルが高く感じるが、その人のよりよい暮らしを考えていくと、必然的に地域づくりにつながるのではないかということが意見交換された。</li> <li>・また、地域づくりは新しいことをつくるという考え方にも陥りやすいが、実はその地域に既存の社会資源はあるがそれに出会えていないのではないかと。〇〇さんにとってのよりよい暮らしのために何が必要かというのを頭の中でウロウロしながら、実際ご本人がいる地域をウロウロするというのも大事だということ。頭のウロウロと地域をウロウロというのは、良いキーワードだとグループで話し、大事に持ち帰った。</li> <li>・そのような演習をとおして、現任研修への効果的な展開を、幾つか挙げているが、受講生に気づきを促すためのアプローチをどうしていくかというところで、</li> </ul>

	<p>事前課題に、地域の状況及び地域資源という情報があるが、ここを演習の中で活用する必要があるかもしれない。ご本人の暮らしの満足度を数値化しながら、身の回りにある社会資源の状況がどうか、持ってきた社会資源の情報が足りているのか、そんなことも考えていける演習にするのはどうかと考えた。自分で整理してきた地域課題を持ってきてだけではなく、その課題を持ってきた方にとっての充実度はどうかいうところを見える化することも意見としてあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援協議会とのつながりは、地域づくりというキーワードと同様、難しさを感じている方たちがいる。自立支援協議会において、どういう場面で個別の課題が地域の課題として取り扱われ、地域づくりになっていくのか。この辺の時間軸が可視化されて、つながりが見えると、自分のやっていることがつながっていくんだという理解になるのではないかと考えた。</li> <li>・ 伝達されたことを研修に関連づけて考えたことは、改めて相談支援専門員は、障害福祉サービスは常にきっかけ、手だてと考える部分も必要ではないかということ。相手に対してどんな社会資源が必要か、どんな専門部会があったら良いか、考える姿勢が重要になってくるのではないか。福祉サービスが出来上がることは当たり前の話で、そこを踏まえて、より良いことを考えていく目線、姿勢が大事だと考えた。</li> <li>・ 地域づくりや自立支援協議会、これらのフレーズの固さも、ふだんの仕事には結びつかないということがありそうなので、言い方、伝え方を分かりやすくしていくことが有効ではないかと、今回の研修を通して特に考えた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続いて、横田委員、お願いします。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成コースを受講した。</li> <li>・ このコースは主に実地教育に焦点化された内容で、主としてスーパービジョン(以下SVと表記する)の実施と展開についてのレクチャー。</li> <li>・ 特にSVの中でも、「傾聴を使った個別SVの技術」について細かく行った。傾聴を使ったSVの技術には五つのステップがあり、ワンステップずつ細切れにし、じっくりとグループワークしながら進めていくという形だった。</li> <li>・ 五つのステップというのは次のとおりで、昨年度の研修も全く同じような内容で行ったと思う。詳細は報告書を参照して欲しいが、ステップ1は相手の傍らで心を開き、意識を集中すること、ステップ2は、言葉を聞くのではなく、相手の気持ちに近づくこと。ステップ3、話の内容を短くまとめて相手に返す。ステップ4、相手の今後の方向性に対する考えを引き出す。ステップ5、相手の考えを認め、具体的な行動を引き出す。</li> <li>・ 押さえておくこととして私がまとめたのは、SVには支持的機能というのを土台としながら、教育的機能、管理的機能の三つの機能があるということ。この三つの機能を念頭に置きながら、場面によってどの機能を発揮するかを意識することも大切だということ。そういったものは、スーパーバイザーがその場面において、スーパーバイザーに対してどのようにアプローチをするかということ</li> </ul>

	<p>を判断する助けになる。この場面では教育的機能を発揮しようとか、この場面では管理的機能を発揮しようとか、そういうことを判断する材料にもなるということ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の実践の中で支持することは、とても得意にしているところだと思うが、こればかりにしてしまうとSVは成り立たない、教育的機能、管理的機能もしっかりと頭の中に据え置くことが大事。</li> <li>・また、その時その場面の実践だけではなく、SVの準備や、振り返りも必要だという話もあった。</li> <li>・伝達されたことで考えたことは、SVに関してはSVの理論や技術をしっかり学べる機会が必要だということ。ベテランの方々は多分、改めてそういったことをやる必要はないかもしれないが、これから人材育成をする人、特に実地教育のインターバル期間の中でSVの対応をする相談支援専門員がしっかりとSVの理論や技術を学んだ上で実践に入っていくことがとても大事と思った。</li> <li>・SVを行うと、どうしてもやりっ放しのような感覚があり、大丈夫だったのだろうかと感じる。成長するための手段が、実践経験を積むことばかりに偏ってもいけないので、理論的に学ぶ機会も必要だと思った。</li> <li>・ただ、その機会はまだまだ少なく、現状あるものとしては、現任研修の講義や一部演習、あるいは主任研修の中では先ほどもご紹介した、傾聴を使ったSVをコマとして取り入れているかと思う。あとは東京都の相談支援専門員ネットワークが実施しているSV道場、これは野中式を活用しながらグループSVの要素でやっているものかと思うが、もう少し個別SVを学んで、自分で体験する場があっても良いと思った。</li> <li>・また、インターバル実習の対応。SVが振り返る機会や、フォローはなくていいのかというところで、振り返りをやっているところもあるようだが、自治体によって差があるのではないかと思う。いかに格差なく体系化していくかについては、今後考えていく必要があるのではないか。フォローもしっかりしていくことで、SVに対してハードルを下げたり、とっつきにくさをなくしていくことに、つながっていくのではないかと思う。</li> <li>・最後になるが、初任者でも現任者でも主任者でも、どのレベルにおいても、言語化をして伝える力というのが共通して求められると感じた。利用者と対峙したときも、抽象的な言葉ばかりではなく、自分が思ったこと、相手が伝えようとしていることを言語化していく力は相談支援専門員に必要だということを改めて実感した。</li> <li>・研修は、志が高い方々が出席していたので、グループワーク時もとても楽しく感じた。こういった機会はいろんな方に経験していただくとモチベーションアップにもなるのではないかなと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりも人材育成も、ケアマネジメントも、障害領域だけに限らないものであるということは確かと思う。それを障害領域の中でとどめておくのではな</li> </ul>

	<p>く、いろんな領域の人たちと連携することを広く学んでいच्छゃると思う、またそれが東京都に還元されると本当に良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆から何か質問等はあるか。</li> </ul>
各委員	(発言なし)

## (2) 各検討チームからの報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>続いて、検討事項の(2)各検討チームからの報告をお願いしたい。</li> <li>前回の検討会以降、本日までの間にどのような活動をしたか、どのような話し合いをされているか、またこの場で共有をしておきたいことを二つのチームからご報告を頂戴したい。</li> <li>まず、内容整理チームの古橋副委員長からご報告いただきたい。</li> </ul>
古橋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に初顔合わせをし、三つ方向性を立てた。特にその中で力を入れて報告する内容は、初任者研修に向けての事例のブラッシュアップ。事例を令和版にしていくということで、今日まで進めてきた。</li> <li>残り二つについては、一つが相談支援専門員の目指す姿のバージョンアップ。こちらは後日、昨年度まで取り組んできた前任の方たちから、お話を頂戴して、内容を引き継ぐ予定を立てている。もう一つが補助教材について。今回の国研修でも、合理的配慮という中で話題に上がっているが、それは来年度に向けて検討をする。</li> <li>まず、今回の初任者研修に向けての事例のブラッシュアップについて資料を基に説明する。事例の氏名は佐藤和也さんから鈴木陽介さん変わった。</li> <li>前任の方々から、古くなってきた固有名詞などがありバージョンアップをしてほしいという話があった。我々の中からも色々意見が上がり、今の時代に合ったということだけでなく、中身も少し見直した部分がある。</li> <li>特に大きく変えたポイントは、ポッチャを新たに取り入れた点。実際に、車椅子ユーザーの間で、ポッチャに関心のある方がとても多いということで、話題性も踏まえて取り入れ、陽介さんがそれにどんな思いを持っているかというところが書き加えられている。</li> <li>それ以外にも、行動的で強みを持っている人物に、変えている。見た目の印象もツープロック、短髪、清潔感とした。ファッションがアウトドアで、人当たりが良かったり、自宅内でもYouTubeでゲームやアニメを楽しんでいる。そして福祉サービスでは、カラオケ、映画、買い物に出かけるということで、非常にアクティブな印象、ストレンクスが分かりやすいという感じがある。</li> <li>そうすると、そこに注目されてしまうのではないかという話もあるが、私的にはミスリードというか、そこは確かに強みであるし、その人がもちろん叶えたい、手に入れたいことだが、実は本人の思いはたくさんある。家族に迷惑をかけているという思いから、家族に迷惑をかけないで、自分で生きていく、暮らしていくということ。つまり本人の思いの全てが目的ではなく、何かをモチベ</li> </ul>

	<p>ーションにして、実は真のニーズを捉えるという研修になると思い、改めて出来上がったものには面白くできたというふうに思っている。受講者も、ボッチャのことを何か実現していこうとなるのではないかと思うが、それも本人の望みかもしれないが、実はそれを通して何か実現できた、取り組めたということを中心に、ほかの思いにつなげていくこと、この辺が今回の変更で、考えさせられる事例になるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、ジェノグラムも変更している。ご両親の年齢についても、暮らしの中での困りなど、ご本人が影響を受けるような環境を、と考えて引き上げた。そのため、祖父が以前は存命だったが、亡くなったことになっていて、祖母は足腰が弱り、母の力を借りる状況になっている。そうするとご本人がその状況を目の当たりにして、より家族に迷惑をかけまい、自分をもっとこんなふうにしていかねばと思うようになる環境のために、そんな変更もした。あと、父が前事例ではあまり積極的ではなかったが、前時代的だという意見で協力的な父に変えた。しかし、体力的に衰えもあり、父も家族の中で協力したいけど動けない。陽介さんがそんな父を見ていて、本人の思いに結びついていく。これらを今回のブラッシュアップで変更した。</li> <li>• これらを踏まえて、関連する情報も変更した。各チームメンバーで担当しチェックしながら変更箇所の間違いが無いか進めた。その結果、今年度の初任者研修に間に合わせる事ができた。他にも、本人のエンパワメントやストレングスに焦点が当たるように、文章を変えた。実際にこれを使ってみて、またいろんな意見も出てくると思う。今後もその時々にならった事例にしていければ良いと思う。</li> <li>• 内容整理チームの発表報告は以上となる。何か補足がチームメンバーからあればお願いしたい。</li> </ul>
各委員	(発言無し)
佐藤委員長	続いて人材育成チームの状況について、藤田副委員長、報告お願いしたい。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人材育成チームとしては、最初の検討会で話し合ったものは、人材育成の方向性と対象者についてどうするかということ。</li> <li>• 東京都の検討会なので、個別の相談支援専門員に対する人材育成というよりは、自治体や拠点機関等を対象とした地域の相談支援専門員のバックアップ、地域で育てるための仕組みを検討委員会の中で構築をしていきたいという話をしてる。</li> <li>• そのために今年度進めてきている初任や現任の実習説明会の実施、説明会動画のインターネット配信、それからこの後主任研修チームからも報告があるかと思うが、主任相談支援専門員像の内容検討とその人物像の提示を考えている。</li> <li>• それから、現任研修の実習説明会について、地域実習という観点が入っているので、この実習の円滑な実施に向けて、窓口となる区市町村職員や拠点機関等の実習対応者を対象に、研修の目的や実習の意図を理解していただけるように、</li> </ul>

実習受入ガイドを作成し、6月6日に説明会を実施した。

- ・今年度は特に傾聴型のSVの説明を丁寧に行い、実習対応の具体的なイメージを持っていただけるようにデモンストレーションを実施した。デモンストレーションの後はシナリオに沿って傾聴型のSVのポイントを解説し、実習を対応する際に活用してもらえらる組立てにしている。
- ・説明会に参加できなかった実習対応者が後から視聴したり、説明会に参加した場合も繰り返し復習ができるよう、録画した説明会の動画をインターネット配信している。
- ・人材育成チームとしての会議は、7月20日、8月22日に2回行った。7月20日については、初任者研修の自治体拠点機関向けの実習説明会に向けてのスケジュールの確認や、初任者研修全体における人材育成チームとしての動きを確認した。
- ・8月22日については、具体的に初任者研修の実習説明会について、それぞれ初任者研修チームで検討をされた部分の確認をし、実習説明会のスライド等の確認、修正等を行った。それから主任相談支援専門員の要件及び人物像の作成についてのたたき台についても話し合った。
- ・そして、現任研修が既に終わっているが、現任研修の終了に向けて、説明会や実習対応者の方に対するアンケートをどうするか、その作成と実施についての話し合いを行った。
- ・人材育成チームの今後の予定は、現任研修の実習に対するアンケートの実施を考えている。これは既に9月4日の時点で、事務局から各自治体の担当者向けに配布をし、実習対応者にも各自治体から流れている。9月20日が締切りで、内容を集計する予定。

この結果についてはしっかりと検証して、次年度の実習はもちろんのこと、自治体の拠点機関の人材育成に役立つような実習説明会になるよう生かしていきたいと考えている。

- ・それから、主任相談支援専門員の要件、人物像については主任研修チームの担当者より提案があるかと思うが、本日の検討会で承認が得られれば、初任者研修の実習説明会で示していきたい。
- ・初任者研修の実習説明会については、9月20日オンライン型で実施予定。この説明会では、初任者研修について、実習の内容とその対応の仕方について説明をし、参加者と質疑応答の時間を設けていきたいと考えている。
- ・それから人材育成チームとして、初任者研修、現任研修、主任研修、専門コース別研修のチームとの連携について、実習については初任者研修、現任研修にまたがっているので、それぞれの研修が連携できるように、初任チームのほうには横田委員と芝委員を配置、現任チームには神作委員と私藤田を配置した。また、地域で人材を育成してもらうための仕組みを構築するために、主任研修と専門コース別研修1のチームに安井委員を、専門コース別研修2に芝委員を



	<p>配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この検討会の中で委員の方々からご意見いただきたいことは、特にないが、内容整理チームへ我々人材育成チームとしても何か協力できればと考えている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここで10分程度双方のチームの皆様からの補足や意見交換をしたい。</li> <li>内容整理チームでの事例のブラッシュアップについてよく分かった。これらを基に、皆様はファシリテーターとして、ファシリテーターの方をさらに指導する立場として、解釈や要点を読み込んでいただいたと思うが、解釈が不足している部分などの確認について、人材育成チームから、意見等を頂戴したい。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例のブラッシュアップ、本当に大変だったと思う。その上で、どのように、検討したのか1点お聞きしたい。</li> <li>重度訪問介護が週2日入っているが、本人がひとり暮らしをしたいという気持ちがあるところから、その準備を含めて重度訪問介護の支給が出たという解釈をしていた。本人の働きたい、ひとり暮らしの希望もあるが、重度訪問介護が出ていることについてファシリテーターをやっているときに、どうしてこの支給が出るのかと聞かれることがあるので、どのように説明したら良いかと思った。父母とも協力的で、元気ということだと、重度訪問介護が入ることの説得力が、少し薄くなってしまったように感じるなのでその辺をどんなふうに検討されたのかということをお聞きしたい。</li> </ul>
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度訪問介護の時間数は、前の事例から変わらないが、そもそもの時間数について、初任チーム内でも疑問が上がり、これを機に訂正してはいかかかという意見をいただいた。これは父が72歳というところがキーで、元気だが、体力的にも、足腰も弱くなってきていて、20歳の陽介さんを抱えるのがしんどくなってきたというところがみそ。そのため重度訪問介護等を入れて、ひとり暮らしもしたいという希望もあるから、少しずつヘルパーに慣れていくという流れがある。両親が高齢で、できるだけ介助を少なくしたいという前提があったので、朝晩の介助を毎日追加しようかと思ったが、まだ始まったばかりの計画で、本人は強く主張するのが苦手という設定なので、そういう人に毎日いきなりヘルパーが入ると、きっと厳しい。なので、現実的にもこのぐらいから始めて、今回モニタリングが3か月と半年なので、これに1年後があったら、その頃から増えていくことも検討するが、半年だと陽介さんのような方は、どんどん計画を変えることは難しいかなというのもあり、以前のままになっている。</li> <li>時間数の200何時間というのは、1週間の合計時間数掛ける4.5時間。計算の仕方は自治体によって違うとは思う。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。説明できるようにしておきたい。</li> </ul>
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>補足をもう1点すると、今、周りに陽介さんのような子がたくさんいるというのもある。みんな、口では夢をいっぱい語るが、現実の生活になると、スモールステップの一段を上げるのが難しい子が多いので、そこをいかに、一緒にそこまで降りていって、考えて一歩を作るかというところが大事になると思っています。</li> </ul>

	<p>るので、そのようなニーズ整理に持って行っていただけたらと思う。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・次に、研修チームごとの報告、進捗状況について事務局より報告いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、現任研修チームについて報告する。今年度の現任研修については、昨年度からのチームで動いている状況。昨年度より打合せ等を開始して、演習ノート、演習時のスライド等をチームの皆様を作成いただいた。これは初任者研修にも共通することだが、今年度は演習ノート、スライドなどの教材を、会場版とオンライン版の2種類を作成していただき、大変なご協力をいただいた。</li> <li>・今年度の演習は、多くの日程を会場で久しぶりに開催することができ、8月29日で全日程を終了した。</li> <li>・現任研修に合わせて、ファシリテーション研修を実施した。昨年度からの協力者と今年度のチームとで実施をしている。こちらは現任研修に合わせての演習指導者養成研修として実施しており、初回の研修だったが、最終日のグループの振り返りの発表では、各地域の状況に合わせた地域づくりについて考えている受講者が多くいる様子を感じることができた。終了後、チームからは演習指導者という地域の中核人材の育成、養成については、今後も引き続き考えていく必要があるだろうとご意見をいただいた。</li> <li>・次に、初任者研修について報告する。7月初旬から動き始め、現任研修のチームと同じように分担、教材の作成等をしていただいた。先ほど古橋委員からもご報告いただいたとおり、新しい事例を組み込んだ。これからファシリテーター説明会を経て、演習は10月初旬から行う予定。合わせて、9月25日から演習指導者養成研修を実施予定。講師陣で資料の作成や打合せを重ねながら、準備している。</li> <li>・続いて専門コース別研修1について報告する。今年度は介護支援専門員との連携がテーマで、サブタイトルは「いくつになっても地域で安心して生活を送るために」となった。講師にはチームメンバー以外に主任介護支援専門員にもご登壇いただく予定。今チームでの打合せを行い、プログラムや講師もほぼ固まった状況。12月上旬に配信で実施予定。</li> <li>・主任研修について報告する。こちらも今チームで打合せを行いながら、プログラム及び講師の調整を行っている。実施は来年の2月中旬からになる。人材育成チームで作成した主任相談支援専門員の推薦については、こちらのチームでも内容を確認のうえ意見をいただいている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の皆様から報告や確認はあるか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1点だけ確認したい。</li> <li>・冒頭に稲垣委員、古橋委員、横田委員から国研修の報告があったと思うが、これは来年度にしか生かさないのでは、受けたコースの研修チームに入れるように、来年度以降考えていただくといいと思う。受講した国研修を生かせるよう、来年度に向けて検討いただきたい。</li> </ul>

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。確かにおっしゃるとおりだと思うので、次年度の検討事項として入れておきたいと思う。</li> <li>・他には、いかが。</li> </ul>
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現任研修が終了して受講生の皆さんに理解していただくために、いろんな手だてを考えて、研修中でも少しずつバージョンアップしながらやってきた。やったことをなるべく忘れないうちに次年度に生かせるようなスケジュールを立てていくほうが良いと神作委員とも話していた。今、初任者研修がこれから始まるというお忙しい時期だが、いつ次年度の研修に向けての打合せができるかという辺りは検討していく必要があると感じている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神作委員いかがか。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現任研修が始まる前にもお伝えしたかもしれないが、現任研修の協力者になっていただく方が、例えば現任研修が始まる時に、自分が次年度作るんだなど思いながら入ると、全然意識が違う。現任研修が終わった後に来年の現任研修検討していただきと言われると、昨年のことを思い出すのがとても大変になってしまう。次年度こういうことを改善しようと思えば受けると、大分違うと感じている。1年間の中で現任、初任と次々あるが、例えば現任研修も今の時点で一旦振り返りをしておくとか、1年間のスケジュールというのがある程度出せるようになってきたかと思うので、人も時間も計画的にできると良いと思っている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。確かに現任研修は年度をまたいで動きがあるところは、委員の方々にご負担いただく面も大きいかと思う。事務局で次回現任の課題をまとめて共有しておくことが必要かと思うので、検討会の検討事案として入れていただけるとありがたい。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一点お伝えしたい。</li> <li>・今回、現任研修で初めてオンラインと会場開催だったので、現任研修チームで分けたほうが良いという話になり演習ノートがオンライン用と会場用と分けて作られた。おそらくそれを引き継いで、初任者研修も分けて作られたと思う。考え方は色々かとは思いますが、演習ノートを分けると、例えば1ページどちらかが増えると、その分ほかのものも全部連動して変えなければいけなかったりと、2個研修を作っているようなところが手間と感じる。例えば会場の場合にはこちら、オンラインの場合にはこちらというように、パワポの中でも同じ説明をするのであれば、それも一つの方法かと思う。</li> <li>・これは研修検討チームで決めたことが決められていくのか、あるいは全体的に見て、大枠は検討委員のほうで決めていくのか、その辺りは今回疑問に思った。今後この検討委員で決めていく枠と、研修の検討チームの人たちで決める枠が必要なのではないか。実習も、今回現任研修の検討チームで大分決めたり変えたりというところもあったので、どこかで整理ができるといいかと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。本当におっしゃっていたことは大事なことと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現任研修のチームの方をお願いしている部分は、かなりあると思う。また初任のほうでもやはり、演習ノートを二つに分けたことで弊害があるか、負担感とかはどうだったか。蛭川委員いかがか。</li> </ul>
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負担感があった。個人的な意見だが、演習ノートは会場用1本で良いのではないかと思っている。進行スライドだけオンラインバージョンは、ブレイクアウトと説明の部分が入れ子になるところをずらすか、演習ノートはここを読んでくださいというやり方でやれないかと、全体を見ていて思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負担感はもちろんあるということ、承知した。</li> <li>・ 主任研修はこれからで、安井委員がリーダーだがどうか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。主任研修については、会場だけなので負担感は、ほぼ昨年どおり。</li> <li>・ 資料もそうだが、引き継いでいかなければいけない。神作委員もおっしゃったように、要するにこちらのやる側の気構えというか、スタートから来年度にむけての引き継ぎも含めてやっていく、そうすると資料をどうするかということが見えてくる。この資料についての課題はずっとある、負担感が多く、確かに整理をしなければいけない。</li> <li>・ 特に検討委員としてどこまで決めるのか、チームで決めるのかということもある程度決めておかないと、研修によりずれが出てくる。検討会の在り方含めて、研修検討会は研修の中身を検討する会なので、資料のことや、引き継ぎも含め考えていかないといけない。今はある程度カリキュラムも資料も、固まっているので、次のステップを考えていくべきところ。そういう視点で考えると、主任研修をする側としても、次の人たちに引き継いでいくために、どう研修を組んでいくか、多少幅を広げて考えていけるのかなと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。引継ぎを含めてそれぞれの研修の中で見えてきている部分がある。ただ、これまでの検討会や、各研修チームで動いていただいていた部分は、大きかったと思っている。安井委員がおっしゃるとおり、共通事項で決めたことを持ち寄ってくるという流れを、システム化していくということは、検討会の役割としてはもう少し明確にしていく時期だろうと思う。</li> <li>・ 新しい委員からのご意見も含めて、そういったところをもう少しシステムティックに、検討会の在り方という部分に入れ込んでいくのは、大事かと思う。</li> <li>・ 研修ノートについて、事務局と検討し、次回お話ししたいと思う。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討事項（2）については以上とする。</li> </ul>

### (3) 主任相談支援専門員の推薦について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討事項の（2）で、人材育成チームから報告があったが、主任相談支援専門員の推薦の要件等、資料2に書かれている内容について、本日ご意見を頂戴しながら、検討していきたい。</li> <li>・ まずは安井委員のから資料2についてご報告をいただき、そのあと委員の皆様のご意見を頂戴したい。</li> </ul>
-------	---

安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 去年度の引き継ぎ事項に、主任相談支援専門員の要件がもう少しはっきりすると良いのではないかという話があった。市区町村が推薦をするときに、実態としては、市区町村が推薦を上げるパターン、あとは主任相談支援専門員になりたい人が手をあげる方式があり、地域の中でその方が本当にふさわしいのかというところが、議論されないで上がってきているという実態がある。また、主任研修を終えた方は、主任として活動してほしいが、仕事の都合等々でなかなか活動いただけていないという実態もある。</li> <li>・ それはなぜかという、主任相談支援専門員はこういうものだという説明が不足していることや、行政の推薦の位置づけも弱いのではないかという話もあった。その上で、今年度、人材育成チームや主任研修のチームの中で、検討したものが資料2となる。</li> <li>・ これは、推薦をするための参考例として見ていただきたいので、これに全て当てはまっている人を選ぶということではない。        こういうことをされている方を地域と行政とが話し合いをして推薦してほしいというものになっている。</li> <li>・ 内容は2点あり、推薦における具体例で、一番肝心だと思うのが、都の演習講師として参画しているというところ。また、インターバル実習で地域の相談支援専門員として実習対応をしているというところも必要と思う。また、相談支援を意識して仕事をされているということや、地域の中で講師をされているということなど、ある程度経験のある方を推薦してほしいということを書いている。</li> <li>・ 研修後の役割についてはこの法定研修の講師として、参画をしていただきたい。また、地域実習にもぜひ協力してもらいたい。あとは、やはり地域づくりということ。人材育成は主任相談支援専門員の役割でもあるので、行政と一緒に頑張って地域づくりをしている方、地域の研修に参画したり、講師として関わっている方を、地域の中で精査をしていただき、地域と行政が話し合いをして推薦を上げてほしい。また研修を修了した方が、地域で主任相談支援専門員として活動してもらえよう目安としてこういうものを作成した。この後ご意見いただきながら、最終的には今度の初任者研修の実習説明会の際に、自治体に提示したいと考えている。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとうございます。</li> <li>・ 資料2を見ていただき、具体例で分かりにくい部分や、研修修了後の役割の中で、ご自身たちの地域の状況なども勘案して、追加事項等もあればご意見頂戴したい。</li> <li>・ この点に関しては全員の方からご意見頂戴したいと思う。まずは古橋副委員長お願いしたい。</li> </ul>
古橋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで推薦方法はお任せだったということに驚いている。</li> <li>・ ミクロ的な話だが、具体例の中に、自治体によってあるかどうか異なるが、相</li> </ul>

	<p>談支援専門員の連絡会などへの加入や、実施研修などへの参加率など、横つながりへの参加の積極性というところも、一例として挙げていいのではないかと思った。ちなみに江戸川区も47事業所程あり、33事業所が連絡会に加盟しながら、研修会などに来るところ、来ないところがあり、そういうところで相談支援専門員の方たちの様子を見ているところもあるので、ちょっと参考までにお伝えした。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて美濃口委員、区の状況など補足的に言えることも含めお願いしたい。</li> </ul>
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にメールでかなり意見を付与させていただいているので、特段申し上げることはないが、文京区の状況をお伝えしたい。</li> <li>・活用のところでも書かせていただいたが、私の所属も基幹相談支援センターで拠点機関となっているので、当初SVをやった感想としては1機関にとどめておくのがもったいないということ。主任相談支援専門員の方々の活用というところも含め、SVと一緒にやってもらえませんか、今年度3名の方に協力いただき、それぞれ2名ずつ担当してもらっている。なるべく一つの機関で行うのではなく、地域全体としてどのように取り組んでいくか、皆さんにご理解とご協力をいただいている状況。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。まさに地域の協力体制の構築がよく分かった。</li> <li>・続いて、稲垣委員、お願いしたい。</li> </ul>
稲垣委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区の実情としては、私が主任研修を受けるときに所属が拠点機関ではなかったこともあり、なかなか大変だった。昨年度初めて民間事業所から、主任相談支援専門員の方が出たが、それ以降該当する方が中央区には全くおらず、基幹相談支援センターだけになってしまう。基幹相談支援センターも、転勤や異動があり、区として増やしていくのが非常に難しいというのが今の中央区の現状で、さらにこの文章が出ると、より今後主任相談支援専門員になれる方が基幹以外にいないのではないかと正直感じた。</li> <li>・ただ、おっしゃるとおり、主任相談支援専門員になったからには加算目的でなく地域づくりには参画していただかなければいけない。なので、このようなものがあると、はっきりと地域づくりに関わらなければいけないという、その先のことまでたどり着けるのではないかと感じた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。意識していただくためにもこういった見える化は大事なかなと思う。</li> <li>・続いて高江洲委員、お願いしたい。</li> </ul>
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子市で8人程で30人程度の実習対応をしている。市と事業所で調整しながらやっているというのが現状。</li> <li>・主任相談支援専門員の推薦要件としては、今回示されたものなどで明確になると、事業所加算だけでなく、その地域で動かなければいけないという意識が持たれるので、内容的にはよろしいかと思う。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。八王子の状況がよく分かった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて蛭川委員お願いしたい。</li> </ul>
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三つ目の「地域課題を意識した相談支援を実践している」というところが、曖昧な印象を受けた。行政の方に見せるものとする、地域課題を意識した相談支援というものを理解している行政担当者がいるのだろうかと思う。どんな行動かとかまで例示したほうが良いのではないか。主任研修に申し込んだ人が、私は地域課題を意識した相談支援をしていますと言ったらそれで済まないのではないか。主任相談支援専門員が地域課題を意識した考え方をするのは当然なので、少し不安に感じた。</li> <li>・その他は特になく、このとおりで分かりやすくてよいと思う。修了後の役割も明確にしている、これからは主任研修を受けた方の意識も変わることを期待したい。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今蛭川委員がおっしゃられた、日頃から地域課題を意識した相談支援ということについて、この文言を入れるに当たって想定したところは、どのようなことだったか。安井委員に戻して良いか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あえてぼかしているというところは正直ある。行政側が分からないのは多分当然で、行政側が分からないのだったら地域に聞くというきっかけにしてほしい。地域に聞いてもらえば、こういう人だよという返事があると思う。</li> <li>・一番心配なのは、これが出たことにより、行政だけで推薦を決めるところがでるのではないかということ。</li> <li>・この文言をあえてぼかしたのは、主任相談支援専門員は誰でもいいわけではなく、それだけ価値のある資格だと思っていて、そこを、行政と地域と一緒に推薦するために対話をしてほしい、そのためのきっかけづくりの一つにならないか、ということだった。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。意図がよく、よく分かった。</li> <li>・人材育成チームのほうから何か補足があるか。横田委員、いかがか。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も作成に関わっているが、私個人的には、もっと厳しめなことを言っていたのを皆さんが柔らかくしてくれた。先ほど蛭川さんから話があった地域課題意識した相談支援を行政側の人イメージできているかということに関して、実は、今までの主任相談支援専門員や拠点機関が行政とのやり取りの中で地域課題を踏まえたやり取りをできてきているかによって、自治体によっても違うだろうと思う。そういう責任が自分にはあるんだということを思った。</li> <li>・ただ、こういったものを作るに当たり、どこに基準を合わせるかがどうしても出てくるので、そういったところも踏まえて、今回はそこに基準を合わせたということになるかと思う。</li> <li>・行政がしっかりこういったことをイメージしながら、主任相談支援専門員として推薦できるということは、主任研修を受けた方が地域に帰ってきたときに、そういう仕事をしてくれるので行政としてもメリットになることだと思う。しっかりした主任相談支援専門員が増えていくことによって、行政としても楽で</li> </ul>

	<p>きるといううまみを持ってもらえればいいと思うし、そういった中で行政としても人選することを考えていく、そのためのきっかけづくりになるのではないかと感じた。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて神作委員、お願いしたい。</li> </ul>
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この「地域課題を意識した相談支援」というところは、ぜひ入れていただきたいと思ったところ。相談支援専門員の中で、自分の目の前の課題を何とか解決しようと思って動ける方たちは結構いらっしゃると思うが、その方の課題解決をしようと思ったり、その方が何かにつまずいていることがあるときは、その後ろに地域の課題が転がっているんだということが伝わりづらい。</li> <li>・現任研修でも地域課題という話を多くしている。例えば現任研修の中で、グループSVをやっても、どうしても事例検討をしなくなってしまう方や、質問のポイントがそこから抜け切れない方がいる。すごく一生懸命やられているのは分かるが、実習で一对一でSVの話をしてみても、どうしても自分の課題から抜け切らない方、なぜそういうことが起こっているのかという話がSVの方向にならない方というのはやっぱりいる。</li> <li>・主任になった方が、自分の課題解決の視点だけではいけないのではないかと、今のところから、今の時点で地域課題を意識したことをやっている方、少なくとも現任のレベルをクリアしている方という意味では、ここの部分は抽象的であっても大切ではないかと思う。</li> <li>・そこに先ほど安井さんや横田さんが言ってくださったような地域、行政とのやり取りということが発生してくるのは、とても良いのではないかと思ひ、これは入れていただきたいと思っている。ただ、研修終了後の役割のところ、その文言がなかった。その後の役割が演習講師や企画立案などの役割になってしまっているので、また曖昧な言い方かもしれないが、地域課題を意識した何か取組をしていくということその後の役割にも入れておいたほうが良いのかと思った。地域に向けて取り組むということは、講師をやる以上に必要なのかと思った。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例から役割まで連動させるという意味でも、今のご指摘は重要かと思った。一つご検討いただく内容かと思う。</li> <li>・次に藤田委員、お願いしたい。</li> </ul>
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も事前にお伝えしたので特に付け加えることはないが、小さな市区町村の状況としては、主任相談支援専門員の方が多くいないということと、毎年1人ずつ増えていくかということ、そういう状況でもないということがある。</li> <li>・最初に人材育成チームの中で掲げた自治体に対する人材育成のための仕組みという意味で、推薦者はいなくてもこの主任相談支援専門員の人物像を自治体の職員の方に活用いただけるのではないかと。SV対応する際にも、担当する自治体職員がこういったことを念頭に置きながら、相談員を育てるために活用していただくことにも、これを提示する意味があると感じている。</li> </ul>



佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに昔からある相談員の姿の中で、1層2層3層の相談員をどう活用していくのかという部分にも関わると思う。基幹の役割をする人と見えてしまうのかもしれないが、そうではなく、地域を底上げしていくための人材をどう育成していくか、主任相談支援専門員というのはもっと色々な人がいていいということも含めて、役割をしっかりと意識していただくという意味で、研修後の役割のほうに重きを置いているようなイメージでとらえた。</li> <li>・推薦の条件というのは、自治体オリジナルで考えても良いが、東京都の検討会としての要望はこうだということ。内容としてはすごく分かりやすいので、ほぼこのままで良いのではないかと。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの話を振り返って思ったのは、確かに、推薦における具体例の下から2番目のところは少し引っかけやすいのではないかと。地域の人材育成を中心的に担っていくのは基幹相談支援センターではあるが、主任相談支援専門員は基幹にだけいるわけではない。もともと基幹に置く想定で創設はされているが、実際はそうではないので、基幹の立場で考えると、基幹だけで人材育成に関することを全部やれと言われても難しい。地域の主任相談支援専門員の力を借りないとやれないところもあるので、地域でも主任相談支援専門員の存在はたくさん必要で、その方々がきちんと関わってくれるということが大事だということが伝えられると良いと思った。そうすると、下から2番目の部分は書き方を変えても良いかと思う。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり基幹相談支援センターとあると基幹という文字に引っ張られてしまう部分があるので、これを入れ替えてもいいのかもしれない。</li> <li>・それでは、この議題についてはこのあたりでいかがか。もう少しブラッシュアップしていくのか、あるいは人材育成チームに最終的な文言の決定をお願いして、それをもとに9月20日の説明会で使うことを、ここでご承認いただくのか、事務局として意見があるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月20日に口頭で説明するのか、この用紙をそのまま区市町村に資料として提示するのかをこの場で確認をしたい。あとは細かい文言の修正などは事務局にお任せいただけるのかということも教えていただきたい。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成チームとして作成した資料は提示するというので良いか。</li> </ul>
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから主任研修の募集が始まるので、遅くなってしまうと、地域からまた例年どおり推薦が上がってくる心配もあるので、できれば説明会では資料として出すことによって意識をしてもらいたい。地域で話し合いをしてほしいという意図もあるので、口頭よりは資料で出したほうが良いと思うが、皆さんいかがか。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もちろん資料でよいかと思うが、質問等が出たり、どのように考えたら良いのかということは、各自治体から出てくる可能性もあるかと思うので、事務局が意図を答えられるようにすることも、必要かと思う。なので、意図を事務局と意思疎通をしていただくことはお願いしたいが、よろしいか。また、人材育成チームで考えていただくということでもよろしいか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、内容整理チームの皆様も、資料で提示すること、なおかつ文言等の細かい修正については事務局に一任すること、9月20日の区市町村説明会では資料として提示するという点に関して、承認いただけるか。</li> </ul>
全員	(異議なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、この資料を提示して、各区市町村に見ていただくということで、事務局には対応をお願いしたい。</li> </ul>

#### (4) その他

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次に検討事項の(4)その他に移る。事務局から説明をお願いしたい</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回、第1回の検討会で、「年間活動方針案、活動計画について」をお出しした。</li> <li>・その後、検討委員の皆さんと令和5年度研修の検討体制について話し合いをしたところ、先ほど話に出た研修との連動性や内容整理と人材育成がクロスする部分が必要との意見があったため、今回改めて令和5年9月8日版として資料をお示しした。</li> <li>・グレーで表示されている部分の変更点で、これについては当日検討委員の皆様には既に合意をいただいていると事務局では考えているため、今回は資料3として配布させていただいた。</li> </ul>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の時点からチームのメンバー変更があり、既に実働としては動いているけれども検討会として改めて承認をいただくという事かと思うが、このメンバーのこのチーム構成で承認いただけるか。</li> </ul>
全員	(異議なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。それでは検討事項は全て終了したので、ここで事務局に司会をお返ししたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤委員長、検討事項の進行ありがとうございました。</li> <li>・以上で閉会とさせていただきます。本日のご参加ありがとうございました</li> </ul>